

精神鎮静法を用いた歯科治療・口腔外科手術

説明は
徳島大学病院歯科口腔外科(歯科麻酔科)
科長 **北畑 洋**(きたはたひろし)教授
■問い合わせ
歯科麻酔科 tel.088-633-7376



不安や痛みを
大幅に軽減！



快適な歯科治療のための
歯科麻酔・静脈内鎮静法
高齢化、成人病増加のなか、
ますます高まる必要性
県内唯一、
年間200例の実績！

患者さんの快適性を 向上させる麻酔治療法

歯科治療で患者さんがいちばん不安に感じ、嫌がるのはその痛みや違和感でしょう。歯の治療に一般的に使用されるのは局所麻酔ですが、精神鎮静法とは鎮静薬などを投与することによって、治療に対する恐怖心や痛みを軽減する方法で、静脈内鎮静法と吸入鎮静法があります。

その目的は必ず快適さと安全性で、患者さんの不安や恐怖心を和らげ、質の高い診療環境を提供します。

静脈内鎮静法は全身麻酔と違って処置中は意識がありますが、薬の作用により恐怖心やストレスを軽減するため、歯科恐怖症の患者さんや嘔吐反射の強い患者さん、あるいはストレスをかけたくない場合(高血圧・糖尿病・心臓病を患っている人など)をはじめ、外科小手術などに使用されます。

当科の業務は、歯科麻酔科外来での診療と、手術部における口腔外科領域の手術や処置の麻酔管理、全身管理に分かれます。

連携しての総合力、 バックアップ態勢は県内随一

最近でこそ麻酔科医の存在が一般的にも知られ、その重要性が理解されるようになってきましたが、歯科治療現場と歯科麻酔科医が緊密な連携をもって取り組めるのは大学病院ならではのことであります。

患者さんの全身状態を管理し、十分なバックアップ態勢で高い安全を確保しているからこそ、万が一にも治療中に容態が急変したり、想定外の不測の事態が起きたりした場合でも機敏に対応できるわけです。

そうした環境を整備出来ているのは徳島県下では本院が唯一で、昨年は年間200例の実績があります。

精神鎮静法を用いた 歯科治療

恐怖心が先立って歯の治療が受けられない患者さん、嘔吐反射が強く歯科治療が困難な患者さん、快適で安全な歯科治療を希望される患者さんなどに対しては、精神安定薬の点滴や麻酔ガスを吸入して歯科治療を行います。意識が保たれたまま、緊張がとれてリラックスした状態で快適に歯科治療を受けることができます。

モニター管理下での 歯科治療

高血圧、狭心症や糖尿病などの内科的疾患をお持ちの患者さんは、歯科診療中に緊張や痛みで体調が悪くなったり、持病が悪化することがあります。このような患者さんの場合、心電図や血圧計などのモニターをつけた状態で歯科治療を行います。処置中に体調が急変した場合でもすぐに対処できる環境を整備していますので、非常に高い安全性を提供できます。

全身麻酔下での 歯科治療

精神発達遅滞など様々な理由によって通常の歯科治療が困難な患者さんに対して、全身麻酔下に歯科治療を行います。治療当日に来院して全身麻酔下で治療を受け、その日のうちに帰宅する日帰り全身麻酔による歯科治療にも対応が可能です。

手術部での 麻酔管理・ 全身管理

口腔外科領域における侵襲(痛み)の大きな手術時での全身麻酔や精神鎮静法の管理を行っています。

得意分野 ・ 歯科治療時の精神鎮静法、全身麻酔
・ 口腔外科手術の全身麻酔

対象疾患 ・ 歯科治療に対する不安、恐怖症 ・ 歯科局所麻酔薬アレルギー
・ 歯科治療時に障害となる嘔吐反射 ・ 知的障害

診療体制と治療方針

● 高齢者や高血圧の患者さんに最適

先述のような手術に対する恐怖心の強い患者さんはもちろんですが、この静脈内鎮静法は高齢の方や糖尿病などの患者さんにとっては、手術中の全身管理が可能ながとくに重要な要素となります。その点、本院は高度な医療技術を有し、関係分野と緊密な連携がとれる環境がありますから、高齢化や生活習慣病が増大することが予想されるなか、歯科麻酔の必要性、有用性を実感していただく機会が増えることと思います。

● ウトウト、浅い眠りのような状態

静脈内鎮静法は、全身麻酔とは異なり完全に意識をなくすのではなく、腕に点滴をしながら鎮静薬を投与して浅い眠りについてような状態にすることで、不快感やストレスなどを感じることなく手術を行うことができるというものです。次のような方に適しています。

【静脈内鎮静法がふさわしい方】

- 歯科治療に対する不安や恐怖心が強い方
- 歯科治療中に気分が悪くなったことのある方
- 高血圧症、心臓病、糖尿病などの全身的な病気をおもちで、全身管理が必要な方
- 嘔吐反射が強い方(口の奥に器具が入ると“オエツ”と吐きっぽくなる方)
- リラックスして、楽に歯科治療を受けたい方